

兜山石

No.2

平成23. 6. 20
阿蘇北中学校広報誌係
成瀬 西村 尾藤

「無知の知・吾唯足知」

校長 麻生 廣文

人前で話したり、多くの人向けに文を書いたりする機会が多い。曖昧な記憶や思いこみにより、間違えた内容を伝えることのないようにしたい。また、不平不満をぶつけるよりも、プラス思考の話を取り上げたいと思っている。なるべく事前に調べ直して、推敲にも相当の時間をかけている。

論語に、「由君よ、『知る』とは何か教えよう。知っていることは知っているとし、知らないことは正直に知らないとする。それが真に『知る』ということなのだ。」という話がある。論語は孔子の教えをまとめたものであり、この話では、「知る」というテーマについての考察である。論語に限らず、古今東西の哲学者たちが次のような言葉をたくさん残しているのを見ると、「知る・知らない」は人間の大きなテーマであったようだ。

○「たとえ愚かな者であっても自分は愚かであると知っている者は賢者である。愚か者であるのに自分は賢いと思ひこみ、そのように振る舞う者がいたら、それこそ本当の愚か者だと言わねばならない。」・・・発句経 (釈尊)

○「彼は何も知らないのに、何かを知っていると信じており、これに反して私は何も知りもしないが、知っていると思っていない。」 (ソクラテス)

○「無知を恐れるなかれ、偽りの知識を恐れよ。」 (パスカル)

○「我々は、現在の知識によってのみ物知りであるに過ぎない。」 (モンテーニュ)

○「誰もが無知である。ただ無知な分野が違うだけだ。」 (ウイル・ロジャース)

どれもよく似たものであるが、真実を探ったり語ったりするときに、謙虚であろうとする人間の叡智が感じられる。話は変わるが、「吾唯足知」という言葉がある。この言葉は石庭で有名な京都「龍安寺」の「つくばい」に刻まれた言葉である。中央の「口」の上部に「五」、右側に「隹」、下部に「一足」の下の「止」に似た部分、左側に「矢」を書き、全体として「吾、唯足るを知る」と読ませている。意味は、「あれこれ強欲にならないで、何もかも満ち足りていることに満足すべきである。」こんなことだそうである。

「無知の知」「吾唯足知」。謙虚や感謝という言葉につながりそうなこれらの言葉を大切にしたいと思っている。何かを伝えるときに一番の落とし穴は、「簡単でわかっている」ことかも知れない。



修学旅行に行ってきました。

5月15日～17日の2泊3日、2年生が沖縄へ修学旅行に行ってきました。3日間あいにくの天気でしたが、子どもたちは沖縄の歴史と文化を肌で体験し、沖縄の方たちの温かい心に触れ、平和について学ぶことができました。感想の一部を紹介します。

「私は、ひめゆり学徒隊の方のお話を聞いて、私たち戦争を知らない世代は、もっともっと深く戦争や平和であることについて、考えなければならないと思いました。そして、この平和を私達が守っていかなければならないと思いました。」



1年生「集団宿泊教室」の思い出

5月25日～27日の2泊3日、1年生が阿蘇青少年交流の家に集団宿泊教室に行ってきました。初めての学校外行事に、最初は不安いっぱいでしたが、こちらの心配に反して、1年生90名は、集団行動を通して、仲間の大切さを学ぶことができました。雨の為、高岳登山は、中止になりましたが、持ち前の明るさで、楽しい思い出をたくさん作ることができました。



燃えた！リレークラスマッチ

井野先生 ようこそ阿蘇北中へ

6月1日水曜日、リレークラスマッチが行われました。どのクラスも意気込み、朝練や学級旗作りに燃えていました。本番では全学年とも兄弟クラスへの応援も炸裂し、担任の先生も子どもたちの走る横を常に一緒に走りながらの応援っぷりでクラスマッチにかけるみんなの熱い気持ちが伝わりました。何よりも保護者の方の応援が全力疾走する子どもたちへの追い風となりました。優勝は、1-3、2-3、3-1でした。優勝したクラスも他のクラスも、これをきっかけに、より一層固い絆で結ばれることを期待しています。



5月30日～6月10日までの2週間、福岡教育大学の井野聡子先生が、教育実習に来られました。井野先生の実習の感想を紹介します。阿蘇北中学校の皆さん、2週間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。リレークラスマッチや生徒総会など、たくさんの行事に参加することができ、とても充実した2週間を過ごすことができました。皆さんの何にでも一生懸命に取り組む姿を見て、自分も頑張らなければいけません。これから私は、大学に戻って先生になるための勉強を頑張ります。皆さんも目標を持って、これからいろいろなことにチャレンジして下さい。皆さんの活躍を楽しみにしています！！

